

平成20年度実施協働事業の事業結果及び評価結果一覧(要約)

1. 実施事業等	防犯対策システム運営事業 (特非)地域魅力/市民自治推進課 (市提案協働事業:H19~H21) 20年度事業費:1,850,000円 (市負担金:1,500,000円)	地域ポータルサイト(えのしま・ふじさわポータルサイト) 運営事業 (特非)湘南ふじさわシニアネット/IT推進課 (市提案協働事業:H19~H21) 20年度事業費:2,050,000円 (市負担金:2,000,000円)	緑地(里地里山)保全活動事業 (特非)藤沢グリーンスタッフの会/公園みどり課 (市提案協働事業:H19~H21) 20年度事業費:2,300,000円 (市負担金:2,300,000円)	子育て情報プラットフォーム運営事業 (特非)地域魅力/子育て支援課 (市提案協働事業:H20~H22) 20年度事業費:2,400,000円 (市負担金:2,400,000円)	図書館収蔵資料デジタル展示推進事業 (特非)湘南市民メディアネットワーク/図書館 (市提案協働事業:H20~H22) 20年度事業費:4,834,000円 (市負担金:3,900,000円)	傾聴ボランティア育成・派遣事業 (特非)シニアライフセラピー研究所/高齢福祉課 (市民活動団体提案協働事業:H20) 20年度事業費:998,203円 (市負担金:661,000円)
2. 事業概要	1. ①防犯情報配信機能、②SOSメール配信機能を円滑に利用できるようにする。 2. ①では「市民電子会議室」などの情報メディアに掲載し、周知する。 3. ②ではかけつけ協力員や防犯ボランティアの動きを適切にコーディネートする。 4. 市内の安全安心の向上に寄与できるようなシステムの利活用を図る。	21年度は「人の温もりが感じられ便利で新鮮な藤沢地域の魅力あふれるサイトづくり」を目指して、次の事項を推進する。 1. 現行サイトをフリーソフトJoomlaを使用してCMS化する。 2. 新ポータルサイトを開発する(21年4月1日公開) ①掲載コンテンツの企画 ②新規コンテンツの組み込みと品質確認 3. 自主運営に向けての取り組み	1. 市有緑地10ヶ所(延べ14,600㎡)の保全を実施。 2. 「藤沢里山保全ボランティアリーダー養成講座」を実施。 3. 市有緑地での保全支援活動、市教育文化センターの教員実習の支援、「みどりいっぱい市民の会」の支援活動の実施。 4. 指定緑地での保全管理活動や啓発活動の実施。	1. 参加型コンテンツ蓄積機能やマイページ機能を搭載した子育て支援ポータルサイトの構築と運営と、市民電子会議室等を活用したコミュニティ形成を行い、必要情報を随時メール配信するなど複数の手法を組み合わせた子育て支援を実施する。 2. 子育て世代以外のコミュニティとの立体的な連携と、プラットフォーム運営での、リアルな人的ネットワークの構築に主眼をおく。 3. 【ひとりじゃない】【縦のつながり】【横のつながり】の3つのアプローチから、藤沢の子育てを支えていく。	1. 市民のためのデジタルバーチャルミュージアムを立ち上げる。 2. デジタル化した文書を提供することにより、市民が文化財にふれあう機会をより多く提供する。 3. WEBを利用できない市民に対して、設置PCでオフライン提供する。	1. さらに専門的で多くの傾聴ボランティアが、様々な現場で、傾聴ボランティアとして活躍できるようにする。 2. 地域福祉の新しい担い手として、全国に普及するような最良のモデルを築く。
3. 事業を行っての成果・効果	【定性的効果】 1. 犯罪発生情報を逐一配信することで、市民の防犯意識の向上につながった。 2. 不審者情報をタイムリーに提供することで、緊急性の高い事態について、注意喚起をすることができた。 【定量的効果】 1. 防犯対策システムの利用者が増加した。 7,492人(21年4月現在)(20年5月時点で6,315人) 2. 認知犯罪件数が減少した(県の増減率との比較)。 神奈川県:113,571件(対前年比+1,037件) 藤沢市: 5,391件(対前年比 -150件)	【定性的効果】 1. Joomlaを使用したCMS化により、サイト運営の効率化、情報提供が容易に実現した。 2. 新ポータルサイトの開発により、より生活に役立つ利便性の高い地域情報を提供できるようになった。 【定量的効果】 1. 掲載コンテンツの充実 ①特集記事を2回/月掲載 ②えのふじニュースを1回/週更新 ③イトコ掘りを1回/5日更新 ④イベント情報を321件(H20.7~H21.3)掲載 2. サイトアクセスの向上 ①総ページビュー 336,913(対前年伸び率+23.4%) ②平均ページビュー 3.0(対前年伸び率+40.7%) ③平均滞在時間 2分18秒(対前年伸び率+35.9%)	【定性的効果】 1. 放置されがちな緑地が保全整備で、植生の多様化が期待され、今後の市の緑行政に寄与できた。 2. 公園愛護会からの要請で、植樹指導を行うなど、市民ボランティアリーダーの成果が出始めた。 3. 竹林の保全、歩道脇の樹木の枝下ろしを実施した結果、近隣住民との良好な関係ができ、地域に根ざした活動の成果が見え始めた。 【定量的効果】 1. 実施2年目で、保全指定面積(14,600㎡)の100%が手に入った。 2. 整備日数が12回から13回に増えた。 3. 養成講座の修了生が17人から21人に増えた。	【定性的効果】 1. 市民の目線で情報提供をすることができるようになった。 2. 子育てについてのフラットなコミュニケーションの場が誕生し、様々な情報交換が行われた。 3. 子育てネットふじさわや子育てコミュニティえんじえるリングで、子育てに関する質問や相談が寄せられ、各方面から集めた情報で対応することができ、感謝の声が寄せられた。 【定量的効果】 1. 子育てネットふじさわ アクセスコスト 5,951,000円(H20.7~H21.3) 2. サイトを通じた問い合わせ・悩み相談件数 13件 3. 「えんじえるリング」 ①発言数 140件(H20.7~H21.4) ②登録者数 41人(H21.4現在)	【定性的効果】 1. アーカイブ化が進み、新しいコンテンツを市民に提供する準備ができた。 2. 市民に図書館を知っていただくためのコンテンツ作成をする足がかりができた。 【定量的効果】 1. 新たにデジタルコンテンツ化した古文書 2. ホームページによる新しいWEB発信 3. 過去の展示デジタル処理	【定性的効果】 1. 講座と実習を通して、福祉の現場や現状を理解して頂いた。 【定量的効果】 1. 初級講座…80名の応募・受講、修了したのは62名。 中級講座…26名の応募・受講、修了したのは25名。 合計87名を育成 2. 傾聴連絡会に加入した初級修了者は55名 傾聴連絡会に昨年度の修了生で継続加入した者は35名 合計90名が加入 (※現段階での会費を納めた者に関する合計数) 3. 傾聴連絡会に加入した者は、ボランティア活動、勉強会への参加、情報交換等、何らかの活動を行っている。
	【定性的効果】 1. 犯罪発生情報を逐一配信することで、市民の防犯意識の向上につながった。 2. 不審者情報をタイムリーに提供することで、緊急性の高い事態について、注意喚起をすることができた。 【定量的効果】 1. 防犯対策システムの利用者が増加した。 7,492人(21年4月現在)(20年5月時点で6,315人) 2. 認知犯罪件数が減少した(県の増減率との比較)。 神奈川県:113,571件(対前年比+1,037件) 藤沢市: 5,391件(対前年比 -150件)	【定性的効果】 1. コンテンツの作成について、市民記者の方が参加するなど、他の団体との人的な広がりが見られ、運営体制の強化が図られた。 【定量的効果】 1. コンテンツを定期的に更新し、内容が充実した結果、アクセス数が対前年比23.4%増、滞在時間が対前年比35.9%増と、ともに前年を上回った。	【定性的効果】 1. 市有緑地が本来あるべき姿に戻りつつあると同時に、活動に携わった市民の郷土愛や地域コミュニティの醸成、美しい地域環境の再生、豊かな自然環境の復元、防災防犯性の向上など、様々な効果が出てきた。 【定量的効果】 1. 市有緑地等の維持管理作業を行う際の目安単価から概算費用を算出する4,233,688円となり、協働事業費(2,300千円)との単純な費用換算で、54.4%の費用節減となる。	【定性的効果】 1. 子育てメールの配信に関しては、他課の協力があり連携が取れた。 2. 市の情報が、ポータルサイト一覧で見られる。 3. 行政のホームページという感覚ではなく、市民目線で情報を収集し、頼みやすい。 【定量的効果】 1. 子育てメールふじさわ 配信件数 457件(H20.4.1~H21.3.31) 2. 子育てメールふじさわに情報を配信している課の数 5課(その他、20年度より市内の保育園からも配信開始)	【定性的効果】 1. 市民にホームページを通して、図書館に興味を持っていただく実際の資料を閲覧しに図書館まで足を運んでいただくためのコンテンツが出来た。 【定量的効果】 1. 資料概要として、地域資料・写真・絵葉書・地図等のデジタル化 2. 絵葉書によるデジタルマップ視点での新しい試み	【定性的効果】 1. 傾聴ボランティア養成講座を通して、地域福祉の現状が理解できたと感じる。 2. 講座を通して学んだことを、更にステップアップして、ボランティア活動に活かしていくものとする。 【定量的効果】 1. 2年間で87名が無事に講座を修了している。 2. 受講者が傾聴連絡会や、それぞれの地域で傾聴ボランティア活動の輪を広げていくことにより、その効果は大きい。
4. 事業を実施しての反省点(課題)と対応策	【反省点】 1. 機器及びネットワーク環境の不具合により、防犯情報が遅延することがあった。 2. 地域における防犯活動や民間企業との連携について、画期的な連携の実現に至っていない。 【対応策】 1. 安定したネットワーク環境下でシステムを稼働できるよう、設置環境を整える。また、従事者のシフト体制を増強する。 2. 実現可能な連携方法について、多方面から幅広く検討し、できるところから実施していく。	【反省点】 1. 広告・協賛収入が予算を大幅に下回った。 2. コンソーシアムの組織化をすすめることができなかった。 【対応策】 1. えのぼタウン情報への広告掲載、協賛企業・団体の発掘、パナー広告の獲得に向けての営業活動を強化する。 ①営業体制の拡充 ②特集やコンテンツ記事等と連動させた営業戦略の実行 2. コンソーシアムについて、地域IT推進会議や市の考え方を聞き、今後の対応を検討したい。	【反省点】 1. 頻度の多い活動が出来ないので、地に付いた長期計画が必要と思われる。 2. 各種団体との連携が更に進められて、緑地それぞれの特性に応じた保全方法、目標を立てることも検討課題。 【対応策】 1. これまでの経験に基づき、10ヶ所の指定緑地に対する現状分析と、今後の保全整備の方法、目標並びに具体的な実施策を行政に提案する。	【反省点】 1. 子育てネットふじさわでの情報提供が、やや行政視点に偏っていると思われる部分があった。 2. コミュニティえんじえるリングでは、どのように活用してよいかわからないなどの声から寄せられた。 【対応策】 1. NPOの取材・編集による記事を多く掲載するほか、「ママ記者」「パパ記者」の育成・依頼をして、市民が情報提供者となるコンテンツを増やしていく。 2. 子育てや子育て支援活動などに関して、情報提供やPRをしたい場であることを軸に、コミュニティ運営を進めていく。	【反省点】 1. 市民や教育現場の視点に立ったコンテンツにならず、図書館の広報に役立っていないので、コンテンツの充実とリンク等による広報が課題と考える。 【対応策】 1. 市民や教育者とヒアリングを行い、学校で使用する資料はどのようなものが必要なものが調査をする。	【反省点】 1. 講師に熱がこもっている為、2時間の枠では収まらなかった。 2. 広報ふじさわでの掲載が中面であったり、ミニコミ誌に掲載されなかったなど、募集の告知が不十分だった。 3. 実習に関する、受講生や施設側からの問い合わせなどは、とてもボランティア的に必要な仕事量ではなかった。 【対応策】 1. 来年度は2.5時間枠で講義を行う。 2. 有料でもミニコミ誌も利用する。 3. 事務局員を置き、多少なりと有償にして報酬を補う。
	【反省点】 1. 協働事業者との対面での打合せが少なかつたため、若干意思疎通に欠けることがあった。 【対応策】 1. 対面式の綿密な打合せを図ることで、情報共有をする。	【反省点】 1. コンテンツの充実が自主財源の確保につながっていない。 【対応策】 1. コンテンツの充実が収益につながっていないので、自主財源の確保につながるような仕組みやコンテンツの見せ方を一緒に考えていきたい。	【反省点】 1. 市として当該緑地の明確な将来像などが示されていない。 2. 活動報告書に記載された団体が気づいたことについて、対応がリニアに出来ていない部分もある。 3. 緑地によっては隣地との境界が未確定のため、団体が手を入れられない箇所などもある。 【対応策】 1. 22年度から、いくつかの緑地の維持管理方針・将来像などを団体に委ねながら企画実施していくことや、緑地ごとに必要な保全活動の内容などを検討する。 2. 21年度から、協働事業の担当者に技術職員を加え、団体からの意見や要望にリニアに対応できる体制にした。 3. 隣地との境界については、境界確定できなくても活動範囲を定めることは出来ると考えられるため、取り組みを進めているところである。	【反省点】 1. 子育て支援課のHP名とポータルサイト名が、共に「子育てネットふじさわ」であるため、変更をする予定であったが、未実施になっている。 2. えんじえるリングの相談回答をする時に、他課の協力が、さらに得られると良い。 【対応策】 1. 早急にネーミングを考え、変更する。 2. 各課長に、再度協力要請を依頼する。 (保健師・栄養士・保育士等の協力体制の強化)	【反省点】 1. 各担当者同士の意思疎通が密な状態ではなかったため、それぞれの役割が把握出来ず、資料提供の遅れに繋がってしまった。 【対応策】 1. 月1回、団体側との会議を行っているが、その会議の前に各担当者の意思を集約する打ち合わせを実施する。	【反省点】 1. 広報ふじさわへの掲載は、募集期間に合わせて掲載している。掲載の場所は、特集以外は難しいと考える。 2. 実習の場合、相手側の都合によるため、計画の早い時期での調整が必要と思われる。 【対応策】 1. 特になし。
5. 今後の取組(協働事業を実施してきて、今後の事業展開や団体活動への取り組みについて)	1. かけつけ協力員の研修会等を企画・運営し、実働性を確保し、続けられるようにする。 2. 市内の防犯活動との連携を積極的に図る。 3. 地域活性化包括連携協定を活用し、防犯システムの参加協力を呼びかけるとともに、可能な範囲内での連携を図る。	1. 協働事業4年目以降のえのぼ運営について市との検討 2. より魅力あるポータルサイトへの活動推進 ①記事作成・編集体制の強化、コンテンツの充実 ②情報提供のネットワーク作り ③アクセス数向上対策の実施 3. 広告・協賛収入など自主財源の獲得活動	1. 緑地を地域(地区別)に分けて活動する運営する方法を検討 2. 中であり、将来地域に根ざした緑地の保全市民ボランティア活動(団体)として始められるよう、指導的立場に立って進めることを、会員全員で考えていきたい。	1. いろいろな団体や活動から、子育てネットふじさわポータルサイトで取り扱う情報を提供してもらえよう、働きかけていく。 2. 寄せられた情報を紙媒体にまとめて提供し、インターネットを利用しない人々にも届けられるようにしたい。	1. 教育関係の映像や3Dをベースにしたプロモーションを、積極的に行うために、藤沢市の歴史資源を楽しく鑑賞できるコンテンツを制作し、インターネットを中心に市民へ提供していきたい。	1. 平成21年度も傾聴ボランティア育成・派遣事業を引き続き行う。 2. 傾聴連絡会の発展への全面的な協力。
	1. 協働事業者と防犯対策システムの機能向上について検討し、かつ集約した防犯情報加入者により認知してもらう方法を検討する。	1. 協働モデル事業終了後の事業実施体制の検討 2. 運営体制強化に向け、人的ネットワークづくりの支援 3. 自主運営を目指した仕組みづくりや活動の支援	1. 22年度からは、現行のような単一的な下草刈りや枝下ろしにとどまらず、将来像や緑地全体の管理保全方針などを、市と団体で計画管理していくことを考えている。同時に、協働事業に適した活動フィールドの選定や手入れの頻度・内容などについても、調査・検討を進めているところである。	1. 課金サービスについての検討 2. 将来的な事業の展望について(継続的な運営及び質の向上) 3. フリーページ作成についての検討 4. 対面ミーティングの開催についての検討	1. 歴史に興味がある市民の方々だけではなく、一般の方々でも楽しめる魅力的なコンテンツを作成し、新規利用者を取り込みたい。 2. 多くの市民を歴史に興味を持たせるため、その取っ掛けになるようなホームページを作成し、図書館の啓発を行っていききたい。	1. 3カ年事業として、平成21年度が最終年度となっている。22年度以降の、自主的な育成事業を期待する。
6. 評価結果	1. 防犯メールの配信状況等、事業そのものはつつがなく行われていて、NPOとの協働事業として実施することによるメリットはどこにあるのか、両者が整理していく必要がある。 2. 事業は全体として有効に機能していると思われるが、警察からの情報が元になっているので、団体・市・警察の3者の協働事業という認識で、警察からの情報に対して、積極的にアプローチすべきである。 3. 犯罪防止という目的は素晴らしい発想だが、警察のほか、学校からの不審者情報なども載せるべき。そして、その犯罪からどのような結果になったのか(検挙されたか否か)ということまで知りたい。	1. 事業は非常に良いレベルで実施され、一定の成果をあげている。ページビューも伸びているが、40万都市のポータルサイトとして考えた場合、さらに一段上のページビューを期待したくなることも事実である。ネット上での仕掛けだけではなく、リアルな場面でのプロモーション作業も必要になってくるのではない。 2. 自主運営に向けての取り組みについては、本事業は市提案事業であることから、団体側に過度な責任を負わせることなく、市側も積極的な解決策を模索すべきである。 3. 自主運営をするには大変な時代だと思うが、企業がメリットを見い出せるサイトとしても利用、発展させて頂ければありがたいと思う。	1. 協働事業としては一つのモデル的な事業。ただし、これが唯一無二の協働のあり方ではない。問題は、お互いの関係性がそのまま進んでいくかどうか。市民側がこうした緑地に入っていくことが、この協働事業をきっかけに、一種の権利のような形で認知されていくこと。 2. 担当課との協力体制、役割分担が比較的上手くいっているケースだと思う。市内10カ所の保全という大変だが、養成講座などリーダーを育てていく前向きさも好感が持てる。 3. 協働事業の内容を100%達成するばかりでなく、支援事業、啓発事業も行って、市内の緑化に十分貢献している事業である。	1. 市と団体が「子育て」にエネルギーを注いでいるのがよく分かった。ただ、今の時点ではプラットフォームが大きくなりすぎて1つ1つが曖昧な印象。子育て当事者、市内の関係部署、市内の子育て支援活動団体などの声を整理していく作業が必要ではないかと思う。 2. 子育てが終わった方、あるいは核家族化が進む中で、高齢者の方のお知恵を拝借する関わりがどこかであったり、そのような支援ができたら面白いのではないかと。 3. フリーページなどの作成に当たっては、他の市民団体との連携も視野に入れてはいいか。	1. 発想は素晴らしい、子供たちにもぜひ見せたいWeb。ただ、3D化や資料のつながりの調整に時間をかけていると公開が遅れてしまう。とりあえず著作権の問題をクリアしたものからどんどん公開をした方がよいと思う。 2. 実際のコンテンツについては、80%程度出来上がっており、出来上がっている部分については十分充実している。今後の方向性についても、魅力的なコンテンツづくりが期待できる。ただ、報告書については、何を報告すべきかというところが、きちんと理解されていないかと思われる。 3. 達成度が85%になっているが、見える形のものがないのが残念である。今年度の費用の一部でも見える形にしたいと思う。また、広報等でも図書館の収蔵資料の概要を本事業の宣伝を兼ねて広報すると良い。	1. 事業の実施状況、問題点の把握等、とても充実した事業が行われていたと思われる。今後のあり方については、協働事業として実施するのが望ましいのか、それとも民間事業に対する何らかの補助がある形がよいのか、1年間の活動をする中でしっかりと話し合っていたらいい。